

『明日の神話』かわら版

発行：特定非営利活動法人 明日の神話保全継承機構 / 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 1-14-11 小林ビル 9F / <http://asunoshinwa.or.jp>


TARO LETTER

埃、猛暑にも堂々と鎮座する



チェックを終えて、状況を報告しあう

の裏面の四方をステンレスの枠で囲み、絵の裏側全体を15ミリのアクリル板で補強しています。絵とアクリル板の間は3ミリのすき間を空けて、そこにエポキシ樹脂を流し込み、固定しているのです。1枚は約1トンの重さがあり、鉄骨にボルトで止めています。アクリル板は気温の変化によって若干の膨張や収縮がありますが、今夏の猛暑で絵への影響や固定状況に変化があったかどうか——。

明日の神話保全継承機構は、名称どおり、『明日の神話』を大切に保全し、後世に引き継いでいくことを目的に活動しています。そこで当NPO法人は10月8日、専門家に依頼し、「壁画チェック」を行いました。『明日の神話』再生プロジェクト・ゼネラルプロデューサーの平野暁臣氏、『明日の神話』の再生・修復を担当された吉村絵美留氏、設置工事に当たった専門技術者らが壁画の裏面に入り、1時間半にわたって、念入りに絵のゆがみ、ボルトの固定状況などをチェックしていただきました。

その結果、現時点では安全面、絵の保全状態に大きく影響を与えることはないことが分かりました。チェックを見守った関係者は、まずは一安心の様子でした。

この結果を受けて、当NPO法人はボランティアの皆さんとともに、10月29日から11月中旬にかけて延べ5日間、絵の表面の埃を取り除く「すす払い」を行う予定です。



自のカルチャー・情報を発信していこうと、昨年からスタート、今回で2回目の開催です。

今回の芸術祭では、「位置情報活用実証実験」にも取り組み、新たな情報発信の可能性も探る予定とのこと。その一環として急速に活性化しつつあるコミュニティーツール「AR機能」を活用した新しいスタンプラリー「pin@clip(ピクナリ)」に『明日の神話』が参画します。スタンプラリーは、渋谷の店舗や各拠点に掲出しているARマーカーをiPhoneで読み込み、カメラモード画面をかざすことで、電子上の情報が浮かび上がり、より多くの情報発信を可能にするものです。

『明日の神話』の看板プレート付近に掲出予定のARマーカーからは、『明日の神話』や岡本太郎の情報が浮かび上がるという仕組みです。この期間にぜひ、『明日の神話』をご覧ください、チェックしてみてください。

『明日の神話』の裏側を点検

猛暑でアクリルに 変化が見られるも、「異状なし！」

岡本太郎の巨大壁画『明日の神話』が渋谷マークシティ2階連絡通路に一般公開されたのは2008年11月17日。この2年間、『明日の神話』は、道行く大勢の人々を温かく見守りながら、大きなエネルギーを与えています。

『明日の神話』の前を往来する人々は1日に約30万人もあり、設置している連絡通路内には相当の塵が舞っています。『明日の神話』が人々に放つエネルギーに変わりはないものの、壁画の表面には埃が付着して、太郎さんの鮮やかな色彩も幾分か霞んでいるようにも見えます。

一方、この夏の異常ともいえる猛暑が、『明日の神話』にまったく影響を与えなかったかどうか気がかりでした。壁画は全体を14分割され、1枚ずつ、絵



壁画の裏側の状況を入念にチェックする吉村氏(左)と平野氏